

「十二人の怒れる男（４人）」リバティ用―C。

原作…レジナルド・ローズ

上演台本…永妻晃

Bits
1

1 「評決の出し方はみなさんにお任せします、先に議論して投票するとか、それとも投票が先でもいいです」

3 「まず、投票しましょうよ」

2 「それが手っ取り早い」

1 「これは第一級殺人で有罪の評決を出せば被告は死刑です。有罪、無罪どちらの評決でも全員一致が条件……」

2 「解ってるよ、全員一致だ」

1 「では有罪の人は……」

4 以外、挙手。

1 「(ざっと見て) 有罪が十一人(不思議?) ……」

1、手を挙げていない4を怪訝な目で見つめる。

一同の視線が4に向く。

2、4に近づき、

2 「おい、聞こえてたのか？」

4 「ええ」

1 「(4を促すように) 有罪の人は？」

4、手を上げない。

一同に

「おーッ?」「うーん?」

と、動揺の声。

2、4を睨むようにして、

「無罪は?」

4、ゆっくり手を挙げる。

1 「無罪、一人」

2 「どこにもへそ曲がりがあるわ」

Bits
2

- 1 「本当に無罪だと思うんですか？」
- 4 「さあ」
- 1 『やあ』？」
- 2 『やあ』とはどういう意味だ！」
- 4 「解らないということですよ」
- 3 「法廷で聞いたでしょ。あの子は人を殺した（のよ）」
- 1 「父親の胸を10センチも刺したんです」
- 2 「証拠は山ほどある」
- 3 「どうしたいんですか？」
- 4 「話し合いましょ」
- 2 「何を話す、十一人が有罪だって言ってるんだ」
- 3 「あの子の話を信じるの？ あなた、あなたね、この六日間、何を見て、何を聞いてたの？」
- 4 「私はこの裁判を、法廷に始めて入った時から」
- 4、腕時計を見て、
- 「十二分前に法廷を退廷するまで確りと見、聴き、メモも取りました」
- 2 「じゃ、どこから無罪って言う言葉が出るんだ！」
- 4 「私が有罪に投票するとあの子は死刑です。人の生死を五分で決めて、評決が間違っていたらどうするんです？」
- 2 「時間は関係ない。直ぐ決めて何が悪い？」
- 3 「何を話し合うの？」
- 1 「時間の無駄ですよ」
- 4 「一時間話し合いましょ。一時間……」
- Bits
3
- 4、柱時計を差して、
- 「現在、5時15分ですから、6時15まで、でないと私は無罪を押し通します」
- 3 「なんて人？ 私は彼の証言から有罪を確信しています。つまりあの子の言葉の中に無罪の証明が一切ない」
- 4 「有罪こそ証明が必要でしょう」

- 3 「あら？」
- 1 「みなさんご意見は？」
- 2 「よし分った、話し合おう！」

Bits
4

- 1 「それで？」
- 4 「被告の少年は悲惨な人生を送って来ています。スラム街に生まれ、九歳で母と死別。父親は文書偽造で服役。その間彼は福祉施設に預けられていた。つまり彼は不幸な幼年期を過ごしています」

- 2 「それがどうした？ 不幸な幼年期が奴を人殺しにしたって言いたいのか？ じゃ、俺も人殺しになる可能性があるって訳だ？ 俺の幼年期は地獄だったよ、でも人は殺さないぜ」

- 4 「私が言いたいののは、あんな乱暴な人間になったのは毎日父親に殴られたからだ、だから少しは彼の事を考えてやっても」

- 3 「ちよつと待つてよ。人殺しに何を考えてやれって言うの？ 俺（私）たちはあの子に借りはないぜ（ありませんよ）、ちやんと裁判も受けてる。それにあの子は大嘘つきだ（よ）！」

- 1 「あなたさ、何故彼が無実なのか言って貰えますか？」

- 2 「目撃者がいる」

- 3 「そうよ、これは個人的な感情じゃない、事実なんだ（のよ）。まずその一つ、下の階に住んでいる老人が夜中の十二時十分に争うような音を聞いている。そして奴（あの子）が『殺してやる』と叫んだ直後に人が倒れる音がした。警察が駆けつけると父親が死んでいた。死亡時刻は同時刻頃。これが事実。まだ十八歳なのは同情するけど罪は償わないと」

- 2 「少年の話は信用できない。映画を『観ていた』と言ってるけど、題名も俳優の名前も覚えてないし、映画館で目撃もされていない……こんな事ってあるか？」

- 1 「向かいのビルの女性の証言が何よりの証拠だと思いますよ。彼女は少年が人を殺すところを見ている。いいですか。女性はこの猛暑で寝るに寝られず窓の外を見ていて、被告の少年が父親を刺すのを見たんです。時計は十二時十分を指していた。それに少年とは顔見知りです」
- 4 「しかし彼女の部屋は高架鉄道を挟んだ向かいのビルですよ。その時電車も通過していません」
- 3 「その車両には『乗客は一人も乗っていないかった』。彼女の部屋から電車の向こうは見えると証明されています」

Bits
5

- 1 「私は動機を考えてみました。人は動機もなく人を殺しません。少年の隣人たちの証言では、少年と父親は喧嘩していた。大声で。怒鳴り合い。罵り合っていたと。夜の八時頃です」
- 4 「そうです。二人は口論して父親が少年を二回殴った。そして少年は怒って出て行った……」
- 3 「それが事件の発端ですよ」
- 4 「しかし、それが父親を殺す動機につながったとは思えません。少年は小さい頃から何度も殴られていて暴力は生活の一部です。たった二回殴られたぐらいで殺しますか？」
- 3 「限度だったかもしれませんよ。限度……分かりますね」
- 2 「奴が犯人に決まってるだろ。前科を見なよ。教師に石を投げて少年審判かけられ、十五で施設送りだ。ひったくりとナイフの乱闘で逮捕。(4を諭す様に)ナイフは名人だそうだ。父親と喧嘩をしている時も、『殺してやる！』と何度も叫んだのを隣の人は聞いているんだ」
- 4 「本気で言ったんでしょうかね」
- 2 「どういう事だ!？」
- 4 「ですから、本気で父親に『殺してやる』と言ったんでしょうか？」
- 2 「ああ、奴は言ったんだよ、本気でな、だから殺した!」

- 3 「『家庭環境』のせいで事件を犯したとしても犯罪は犯罪です」
- 1 「スラム街は犯罪の巢^すです。そんな子供は社会の脅威になる可能性がある」
- 2 「スラム街の奴らはクズだよ、クズ、クズ。社会に必要なない！」
- 4 「私もスラムの出身です」
- 2 「成程な!？」
- 4 「ゴミためて遊んだから今もくさい臭いがするかも知れませんが、だからといって彼の見方をする訳でもありません。私はただ正しい評決を出したいだけです」
- 一同、黙る。
- 4 「聞いて下さい。私もこの事件は皆さんと同じく彼が有罪に思えます。法廷の六日間の証言を皆さんと一緒に聞いて来ました。しかし、その証言の中に確かな証拠はないと思います。始めたんです。弁護人も充分に反対尋問をしていません。すべてに見逃しが多過ぎます」
- 3 「質問なんかしたら、余計不利になるからじゃないんですか？」
- 4 「少年の立場で考えましたが、私なら弁護人を替えます。命がかかっているんだから。検察側の証人を叩きのめして欲しい！ 犯行を見た証人は女性一人だけで、もう一人の老人は声を聞いたとか、人が倒れる音がしたとか、状況証拠だけです。検察側の証人はその二人だけ……もし、間違っていたら？」
- 2 「間違える？」
- 4 「人間は間違えを犯すものだ」
- 2 「間違っていない」
- 4 「絶対に？」
- 2 「絶対なんてあるわけないだろうが！」

- 4 「(にっこり) そのとおりです」
2 「ふん、引っ掛けやがったぜ！」

Bits
7

- 2 「……肝心な話をしよう。いいか、父親の胸に刺さっていたナイフは……少年が犯行の夜に買ったと認めている」
4 「ナイフの証拠写真はここにありませんか？」
1 「用意させます」

1、ドアの所に行って、係員に何か言っている。

- 3 「ナイフは重要な証拠です」

- 4 「そのとおりです」

- 3 「いいですか」

- 4 「どうぞ」

- 3 「では、順に考えましょうよ。父親に何度か殴られて……」

- 4 「二回」

- 3 「二回殴られて、午後八時に少年は家を出た。そのまま中古店へ行きナイフを買った。それは普通のナイフじゃない。柄に珍しい模様があるナイフです。店の主人も『あんなナイフは初めてだ』と言っています。午後八時四十五分少年は友人と会った……(4に) ここまで合ってます？」

- 4 「ええ」

- 3 「ナイフを買った後、その友人と一時間ほど喋って……」

- 2 「友人もそのナイフを見ている」

- 3 「少年は十一時半に映画を観て午前三時十分に帰宅し逮捕された。ナイフは映画へ行く途中で落としたと言っている」

- 2 「嘘だな」

- 3 「そう映画館へも行かなかったと思いますね。出演俳優も、題名も覚えていないんだから」

1、ナイフ証拠写真を係員から受け取ると戻って来る。
る。

Bits
8

- 3 「本当はナイフを買った後、家に戻って、父親を刺し殺し、

午前十二時十分に家を出た。本当にあの子がナイフを落と
したと（4に）あなたは信じてるの？」

2 「たまたまそのナイフを拾った人間が少年の家で父親を刺
したとでも言うのか？」

4 「誰かが似たナイフで刺したとか……」

2 「まさか？」

1、一同に血の付いたナイフの証拠写真を見せる。

1 「見て下さい……本当に珍しいナイフです」

2 「そんな偶然がある訳ないだろう！」

4 「可能性はあります」

2 「奇跡でも起きない限りない！」

4 「そうですね」

3 「同じナイフがあるっていうの？」

4 「ええ」

2 「あるなら、見せてみる！」

Bits
9

4、鞆を一同の前に投げるように置き、ごそごそ
やる（鞆の中の物がガサガサと音を立てる）。

一同、5を取り囲む。

4、鞆の中から、布に包まった物を取り出すと、

一同に翳^{かざ}し、丁寧^{ていねい}にまかれた布をくるくると剥ぎ、

4 「はい、これです」

と、同じ絵柄のナイフを一同に見せる。

一同、騒然。

4 「どうです」

1、証拠写真とナイフを見比べる。

1 「同じだ？」

3 「あるじゃない。これ、どこで?!」

4 「昨夜^{ゆうべ}、少年の家の近くの質屋で買ったんです。二十ドル
でした」

1 「同じ様なナイフで誰かが父親を刺した？」

- 2 「無い、無い、無いぞそんなことは！」
- 4 「さあ、どうでしょう。現にこうやって同じナイフが眼前にあるじゃないですか。私が作ったと言うんですか？ 私にはそんな技術はない」
- 3 「そうね。確率は低いけど、可能性はある」
- 2 「こうなったら評決不能にしようぜ、疲れた。必ず再審で有罪になるさ」

Bits
10

- 2、柱時計を指し、

「おい、あんたの言った約束の時間だ。評決不能……決まり。さあ、お開きだ！」

- 1 「ちよつと、待って下さい。ナイフの件は？」
- 2 「一晩中ここに居る気かよ？」
- 3 「人の命がかかっているんですよ」
- 2 「おや、あんた、こいつの味方か？」
- 3 「そうじゃないけど、ナイフが？」
- 2 「ナイフなんかどうでもいいだろ。実際に犯人を見た女性の証人がいるんだ！」

- 3 「そうだった（わ）」

- 4 「……提案があります」

- 1 「何ですか？」

- 4 「もう一度投票しませんか？ 私をのぞいて、もちろん無記名で、もし有罪が11なら皆さんに従います」

- 1 「よし、そうしましょう。反対の人はいませんね」

- 2 のみ手を上げる。一同の挙手が無いのを観て、

「何でもやってくれ！」

- 1 「用紙を配ります……」

- 1、ポケットからメモ帳を出し、切りながら（無対象）、

「ペンはお持ちですか？」

- 3 「いいえ」

- 1、ポケットから数本のボールペンを出し、

3に渡し、2に、

「あなたは、お持ちですか？」

2、胸のポケットからペンを抜く。

11人、無記名投票。

何人かが集めた紙切れを1に渡す。

1 「(紙切れの文字を読む) 有罪、有罪、有罪、有罪、有罪、有罪、有罪、有罪、有罪、有罪、有罪……無罪」

2 「誰だ?!」

1 「無記名投票に同意したでしょ」

2 「(1に) おーい、お前だろッ。もともとの不良が環境のせいで犯罪者になったなんて、お涙ちようだいのお伽^{ときばなし}漸なりやがって!」

1 「あんた」

2 「何だ!」

1 「あなたね」

2 「何だよ!」

1 「なぜ私だと思うんです？」

2 「俺は勘がいいんだよ」

1 「勘ですか？ 動機もなしに勘でね？」

2 「ああ、昔から俺は勘がいいんだ。奴を電気椅子に送ろうとしてたのに……」

1 「そうですね、たいした勘ですね。皆さん……私です。私が無罪に一票入れました。理由を聞きたくありませんか？ 彼(女)は一人で闘った、有罪に確信が持てないからって……なかなか出来ることじゃない。私には出来ない。その勇気を尊重して、私は無罪に入れたんです。有罪かもしれない……。しかし、もつと話し合うべきでしょ。10対2……」

Bits 11

2 「よし、分った……(1に) 階下の老人の証言では、少年が『殺してやる!』と叫んだ後、誰かが倒れる音を聞いて

- いる。老人がドアを開けると奴が逃げて行くのが見えた。
これはどうなんだ？」
- 4 「本当に老人が見たのは少年だったのでしょうか？」
- 2 「少年が『殺してやる！』と叫んだんだ！」
- 4 「天井越しに声が聞こえますか？」
- 3 「暑い夜だったから窓が開いてたとしたら？」
- 4 「しかし、その叫び声が少年の声だったかどうか聞き分けるのは難しいんじゃないんですか？」
- 3 「何故!? 向かいの女性の証言があるでしょう。窓越しに少年が父親を刺すのを見た。それで十分でしょ」
- 4 「いいえ」
- 1 「何か確信があるなら言って下さい。確かに女性は殺人を見たと言ってます」
- 4 「高架鉄道がある一点を通り過ぎる時間は？ ああ、一点と言うのは殺人が起きた部屋です」
- 1 「何か関係があるんですか？」
- 4 「何秒だと思います、電車が通過する時間です？」
- 1 「さあ？」
- 4 「(3に) 分ります？」
- 3 「7、8秒ぐらいじゃないの？」
- 4 「そう、約8秒弱かかります」
- 2 「何のゲームだ？」
- 4 「いいですか、6両の電車が、ある一点を、殺人現場の部屋を通過するのに約8秒弱……線路際に住んだ経験のある方はいます？」
- 3 「以前、高架鉄道を見下ろす部屋に住んでいたけど」
- 4 「電車が通過する時に他の音は聞こえましたか？」
- 3 「何も聞こえないわよ。電車の音がうるさくてさ」
- 4 「二つの証言を結び付けます。第一、階下に住んでいる老人が『殺してやる』という声を聞いた直後、人が倒れる音も聞いている」

- 1 「ええ」
- 4 「第二に、向かいの女性は窓の外を見ていて、最後の2両越しに殺人を目撃した」
- 3 「それがどうしたって言うの？」
- 4 「最後の二両越しに殺人を見たなら、倒れた時、電車はちやうど轟音を上げて通過中だった。被害者が倒れる前の約8秒間。もう一度確認しますよ。いいですか、老人は叫び声の直後に倒れる音を聞いたと証言しています…：本当に叫び声と倒れる音が聞こえていたでしょうか、電車の通過中では不可能だと思いますが、しかも老人の聴覚で」
- 2 「大声で叫んでいんだよ！」
- 3 「無理（ですよ）よ。テレビのボリュームいっぱいにならたって聞こえないんだから（もの）」
- 2 「爺さんは確かに聞いたんだよ、だからドアまで走って行って少年を見んだ」
- Bits
12
- 3 「待って、爺さんが “ 走った ” ？」
- 1 「どうしたんですか？」
- 3 「もし、もしも…：…ですよ、あの爺さん、いえ老人が嘘を ついていたとしたら…：…」
- 1 「嘘?!」
- 2 「何だ急に?!」
- 3 「老人の足取りを覚えていますか？ 老人はゆっくりと証言台へあがった。そう、左足が不自由なのを人前で隠そうとしてね」
- 1 「足が何だって」
- 3 「足をね、少し引き摺^ずっていたんだよ。気が付かなかったですか？」
- 1 「（思い浮かべ）確かに」
- 4 「そう、そうでしたね。（一瞬考えて）やりましょう」
- 1 「何をです？」

- 4 「脳卒中で足の不自由な老人が15秒でベッドから玄関まで行けるか実際に試してみましよう」
- 2 「20秒だよ」
- 1 「いや、15秒と自慢げに言っていました！」
- 2 「もうろくしている爺さんだ、信用できるか！」
- 一同、2を見る。
- 2、バツの悪い顔。
- 4、ポケットから手帖を出し、
- 「ベッドから寝室のドアまで3.6メートル、廊下から階段のドアまで13メートル、合計16.6メートル。これを15秒で歩けるか？」
- 2 「歩けるだろ」
- 4 「老人にしては長い距離です。ここがベッドの位置。(1が立つ)(歩いて)ここが寝室のドア。(4が立つ)廊下を測ります」
- 2 「何やってんだ？」
- 4 「時間を計ります」
- 2 「重要なら弁護士が質問してるだろう」
- 3 「見落としたんだよ(のよ)」
- 2 「国選弁護士は馬鹿だって言うのか？」
- 4 「老人いじめになると思ったかもしれませんよ。陪審員に悪い印象を与えますからね。玄関の位置はここ、(3が立つ)チェーンがかかっていた。秒針付きの時計を持っている方は？」
- 1 「私が……」
- 4、ベッドの位置に着き、
- 4 「ではいつでもいいですから、合図をして下さい」
- 1、時計を見つめている。
- 2 「何を待ってんだよ」
- 1 「秒針が上に来るまで……」
- 2 「(呆れる)」

1 「どうぞ！」
4 「ベッドから起き上がる」

4、ベッドから老人が起き上がる動作をして、足を引きずり歩き出す。

1 「5秒経過」

2 「もっと早く歩いてたぞ」

4、少しスピードをあげる。

1 「10秒経過」

1は15秒を過ぎてしまうのでそこで止まる。

4、ドアの位置まで来て止まり、

「ドアチェーンを外す、ドアを開ける。ストップ、時間は？」

1 「41秒です」

2 「……!？」

3 「あの老人が嘘をついた？ いや、事件を知って、少年の声を聞き、人が倒れる音がしたと思い込んだ。(1に)

ばいしんちょう
倍審長、無罪に変える」

2 「なにー!？」

1 「9対3になりました」

2 「いい加減にしるよ。探偵小説でも書くのか？ 弁護士も投げ出したんだぜ」

Bits
13

1 「弁護士が頼りなかったんですよ」

3 「確かに法廷の証言では少年は有罪に思えたけど、よくよく考えりゃ、なぜ逮捕されるのに家に帰って来たのもおかしい」

2 「刺したナイフを取りに帰ったんだよ」

1 「なぜ、現場にナイフを残したんです？」

2 「父親を殺してパニック状態で逃げ出したんだよ」

1 「そんなに慌ててましたか、指紋をふき取る冷静さはあったんですよ」

4 「そこが不思議なんです。もし、少年が犯人なら、何故ナ

- イフを死体に残し、指紋を拭き取ったのでしょうか？」
- 3 「そうですね。ナイフを買った事は、店の主人も彼の友人も知っていますからね」
- 1 「少年の父親に恨みを持った誰かが……」
- 3 「まあ、スラムの人間なら何らかの恨みを持たれてもおかしくないでしょうけど」
- 1 「ほら、文書偽造で服役していたって、その被害者の誰かが、偶然同じようなナイフで少年の父親を殺し指紋を拭き取った。どうです、これなら理屈に合う」
- 3 「恨みではなく強盗だとしたら？」
- 2 「金があるような家じゃないぜ」
- 3 「お金以外の値打ちがあるもの？」
- 2 「そんなものがあつたらとつくに金に換えてるだろう」
- 1 「ナイフ以外指紋を拭き取った形跡は部屋の何処にもなかったそうです。強盗じゃないです」
- 3 「手袋をしていたとか？」
- 1 「そこなんです。はじめから父親を殺す気なら確かに手袋を用意していた筈です。ところがナイフの指紋を拭き取っている。つまり、計画的ではなく衝動的にだったという事です」
- 2 「計画的ではなく衝動的にだったとしても犯人なら、ナイフの指紋を拭き取るなんてしないさ、持ち帰れば済む事だ。あんたらはどうしても少年を犯人にしたいくないようだな」
- 4 「……父親は心臓を刺されています。ナイフを抜くと返り血を浴びます」
- 3 「そうだよ」
- 4 「犯人はその事を知っていた。血だらけの服装で街を歩けません」
- 2 「それは、少年にも言える事だ！」
- 4 「ナイフの名人の少年が犯人なら、ナイフを抜きとっていいました」

2 「どういうことだ？」

4 「ナイフを抜く時、布を傷口に当てれば返り血は浴びません」

2 「ほう、さすがスラム出身だな。だがな、ガキは実の父親を刺したんだぞ、パニック状態だったんだ。奴は無意識にナイフの指紋を拭き取って逃げ出したんだ！」

4 「……確かに、少年はパニック状態だったかもしれない。向かいの女性の証言では、殺害の直後に彼女は悲鳴を上げている。その声を少年が聞いて、殺人現場を見られたと思っただ。いや、聞こえなかったのか知れない。少年は咄嗟とっさにナイフの指紋を拭き取ってその場を立ち去った。そして三時間後に気持ちが落ち着き、ナイフを取りに戻った」

2 「その通り！」

4 「……（しつかりと）でもそうじゃなかったら」

2 「馬鹿を言え！ 随分ホラ話は聞いた事はあるが、こんな茶番劇ははじめてだよ。みんな正義に燃えてこの部屋に入ったのに……どうしたんだ！ あのガキは死刑にすべきなんだよ。電気椅子送りだ！」

3 「ちよつと待って、あなたは死刑執行人？」

2 「ああ、スイッチは俺が入れてやるよ！」

1 「少年を殺したいだけなんでしょう」

4 「サデイストだ！」

2、4に

「こいつ！」

と、4に襲い掛かろうとする。

1、3が止めに入る。

2 「放せ……この野郎、殺してやるぞ！」

4 「……（微笑）まさか、本気じゃないでしょ？」

3、4を睨む。

Bits
14

1 「みなさん！ みなさんは争あらそうためにここへ来た訳ではな

い筈です。郵便の告知でここに来た。決めるために……そうですね。その評決で私たちに損も得とくもありません。これが私たちの強みです……私情を交えてはいけないと思います」

3 「……どうです、また投票しませんか？」

1 「そうしましょう、用紙を……」

3 「口頭で投票しましょうよ、その方が立場がはっきりする」

1 「いいでしょう、反対の方は……」

一同、異存がないようである。

1 「(頷き)では私から……無罪……(居るであろう人に)あなたは？ 有罪……あなたは？……無罪……(2に)あなたは？」

1、評決を紙切れに書き込んで行く。

2 「有罪！」

1 「(いるであろう人に……次、3に)あなたは？」

3 「もちろん無罪」

1 「分かりました、6対6です」

2 「評決不能ひょうけつふのうにしようぜ、時間の無駄だ」

1 「(4に)ひとつ疑問なのは、犯行時間に観ていたはずの映画を少年は思い出せなかったことです」

4 「彼の立場として、思い出せますかね。父親と大喧嘩をして殴られた後ですよ？」

1 「いくら興奮状態だったとしても？」

4 「警察の尋問じんもんは父親の死体のある寝室でおこなわれたんです。そんな状況で……」

3 「しかし、法廷では映画の内容を言えましたよ」

2 「弁護士の入れ知恵だよ、俺は犯行直後の尋問を信じるね」

4 「……」

一同、黙る。

Bits
15

1 「ちよつと、ナイフを……」

- 1、ナイフを手に取り、
- 1 「もう一つ、気になったんですが……刺し傷は下に向かって付いていたんですよ……少年は167・5センチ、父親は185センチ、その差は17.5センチ。それだけ身長差のある人の上から刺せますか？」
- 2 「ふん！ 何も知らねえ奴だな。映画でもテレビでもしょっちゅうやってるよ。再現してやるからナイフを貸せ……誰か」
- 4、が目に入る。
- 2、4に近づき、
- 2 「いいか、つまり父親と奴の差は……？」
- 1 「17.5センチ」
- 2、4の身長に合わせて低くなる。
- 2 「これくらいか、よく見てろよ」
- 2 「クソっ」
- と、ナイフを逆手に握り一気にナイフを振り上げる。
- 一同、騒然。
- 2 「安心しろ……刺したりはしねえよ。こうだ！」
- 2、4にナイフを突き刺す仕種をする。
- 2 「背の差なんて関係ねえ、下向きになってるだろ、奴と同じだ。納得したか」
- 4 「……納得しませんね」
- 2 「何ッ？」
- 4 「みなさんナイフの喧嘩を見たことありますか？」
- 1 「いいえ」
- 4 「わたしは何度も見えています。スラム出身ですからね。街では名物でしたよ。ナイフはこうは構えない」
- 4、2がやった逆手から持ち替え一同に見せる。
- 4 「こう握ったものを、こうすると、(逆手にする)時間がかかり過ぎます……こう持ったら、このまま……スウッ！」

4、ナイフの突きあげる。

4 「こうやるんです。少年はナイフの名人」

2 「……よし、分かったもうウンザリだ。俺も無罪！」

1 「ちょっと待って下さい。答えになってませんよ。あなたは一体どんな人なんです？ あなたは一貫して有罪を主張して来た。ところが今度は“ウンザリ”だから無罪に変える？ 人の命を弄もてあそぶ権利はあなたにはない！ 無罪と
言うのなら、無罪だと本当に納得してから票の行方を変えて下さい。有罪だと思ふならそのままに、有罪か無罪かどうか
ちなんですか？」

2、1を暫く睨み、

「有罪だよ」

1 「何故?!」

2 「何故も糞もねえ、奴は有罪なんだよ」

4 「……投票しませんか？」

1 「……分かりました」

Bits
16

1、一同を見渡し、

1 「無罪の人は手を挙げて……1、2、3、4、5、6、7、
8」

1、も手を挙げて、

1 「9……有罪の人は……（いるであろう人に）1、2」

2、手をあげない。

一同の視線が2に集まる。

1、改めて2に……。

1 「……有罪の人は？」

2、手を挙げる。

4 「……偏見へんけん抜きで物事を考える事は難しいです。偏見で真実がぼやけてしまう。真実は永遠に分からないかもしれません。しかし、9人が被告を無罪と思っている。でも、間違っているかもしれません。犯罪者を釈放しようとしてい

るのかもしれない。3人の方にお聞きしたい、なぜ有罪だと確信を持てるんですか？（2に）あなたからお聞きしたい。何故、確信を……」

2 「いいか、女が見てるんだよ、それが証拠だ！」

2、4に怒りの眼を向けメガネを外し目の付け根辺りをさすり出す。

Bits
17

3 「……ちよつと……そうだ?!」

4 「どうしました？」

3 「(2に) ちよつとあなたにお聞きしたいんですが」

2 「何だ？」

3 「……何故そんな風に鼻をこするんですか？」

2 「気になるからだ」

3 「メガネのせいですか？」

2 「そうだよ、もういいか」

3 「みなさん、思い出してください。目撃者の女性ですが……あの方も法廷で何度も鼻をこすっていましたね」

4 「確かに、何度もね」

3 「彼女は60幾つとか言っていましたね」

1 「5です、65歳」

3 「公おおやけの場に出るので若作りをしていた。そう思いませんが、厚化粧で髪も染め服装も若い女性が着るような物だった。

メガネをかけるのが恥ずかしかったんでしょね」

2 「鼻をこすっていたからってメガネとは限らんだろうが」

1 「いや、あれはメガネの跡ですよ」

3 「メガネ以外にそんな跡が付きます？」

2 「分かったメガネの跡だでしょう。いいか、若く見せたくて、外出がいしゅつの時はかけなかったでしょう。しかし殺しを見た

ときは一人で家に居たんだ。若ぶる必要なんかないだろう」

4 「確かに一人でいる時は、若ぶらなくていい。しかし寝ようとしている時ですよ？」

- 1 「メガネをかけて寝る人はいないでしょう」
- 4 「もちろん外していた」
- 2 「何故分かる」
- 4 「推測です……彼女は何気なく外を見たと言ってます。メガネは外していたでしょう。外を見たとたん殺人が起きた、メガネを掛ける余裕はありませんよね。彼女が見たという少年はぼやけて見えてた筈です」
- 2 「何故そんなことが分かるだよ。彼女は遠視だったとしたら、サングラスの跡かもしれないだろ」
- 1 「たとえ、遠視だとしても、18メートルも離れている人間を夜間に確認できるなんて、そんな人がいますか？」
- 4 「(居るであろう人物に) どうです、これでも少年は有罪ですか？ ……分かりました。(別の居るであろう人物に) あなたは？ (頷く)」
- 1 「……これで無罪は十一です」
- 4 「(2に) 有罪は、あなた一人だ」
- 2 「構わねえよ、これは俺の権利だ！ 法廷での証言の何もかもが証拠だ！ 奴は有罪に間違いない。下に住んでいる爺さんがみんな聞いたんだ。爺さんはドアまで走って行って犯人を見たんだ。秒数なんて関係ねえ。同じナイフがあったからどうした。お前たちの話はみんな大嘘だ！ 何もかもだ！ 事実をねじ曲げやたって！ メガネを外した女も宣誓せんせいしたんだぞ！ あの不良は死ぬべきなんだ……いいか、子供なんか信用するなよ。子供なんか……畜生！」
- 2 は力なくうな垂れる。
- 一同、憐れむように彼を見つめる。
- 2、絞り出すような声で、
- 「無罪……無罪だよ……あの子は無罪だ」

深いF・O

完 2018/11/9/fri